

有明高専だより

第40号
有明工業高等専門学校
〒836・大牟田市東萩尾町150
TEL 0944 53 1011
印刷・西田印刷所

第十七回

入学式 辞

只今、入学を許可された一五三名の新入生の皆さん、入学おめでとう。
来賓・父兄・教官・職員・上級生、相集まって入学式を挙行し、諸君の入学を心からお祝いするとともに、諸君を私共学園の一員として温かくお迎えします。

有明高専は、新しい制度の学校として、昭和二十八年創設され、歴史は浅いと私共も思い、社会も考えているようですが、本日の入学式は既に十七回目の入学式であり、諸君の在学中には創立二十周年を迎えるのであります。

高等専門学校の目的は、学校教育法に明記されている通り「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」にあります。もちろん、本校はその達成を目的とするもので、端的に云えば、機械工学又は電気工学、工業化学又は建築学それぞれの分野の、技術者としての能力はもとより、豊かな人間性、健全な身体を育成を旨としているのであります。

高専制度の特色はいろいろありますが、その一つとして若年時から技術教育があります。技術を体得する能力は、若年時程すぐれているが、技術の基本となる学理

の理解には、ある程度の年齢が必要であり、両者間の調和は中学卒業の頃にあると考えられます。高専が中学卒業生を受け入れるのはこの点にあります。

又、大学入試に煩わされることなく、五か年継続して技術教育が行えることも高専教育の一特色で、これにより一人前の立派な技術者としての育成が可能で、現に、卒業生は皆、企業にあって優れた技術者として活躍しています。

特に、高専制度の優れている点は、一般教育と専門教育とが、五か年並列に行われることで、技術の根本となるべき人間性、社会人としての教養も、技術教育の一環として行われているのであります。去る昭和五十一年、高専教育には著しい改善が行われました。地域の産業、時代の進展、社会の姿に随って適切なカリキュラムが、学校独自の工夫で組めるようになつたこと、選択科目を設けて、学生は自分の選択によって授業が受けられるようになったこと、であり、これにより学習は一層充実とゆとりをもつたものとなると考えられます。もちろん高専の特色である実験・実習・製図などの実践教育を重視する点については変りはあ

りません。

高専での学習は積み上げであります。高い階段を昇るようなものであります。卒業する時点で学生の能力は、現在の諸君に比べると非常に高いものであります。これは階段を一段一段と確実に昇ることによって、はじめて到達できるものであります。先生方の御指導のもと、諸君の学力をもつてすれば、目標への到達は決して困難ではありません。非常に残念なことは、本校では毎年進級出来ない学生が少なくないことです。

教官の御指導に従わないからです。毎日の学習を怠らないという平凡な原則を守らないからです。どうか、諸君の中から、一名の落伍者も出ないことを期待します。

高専教育の目的は技術の習得にあることは言うまでもありません。あることは言うまでもありませんが、同時に技術の基本となるべき人間性の涵養にあることも先程述べた通りであり、後者の目的は学校だけで達成されるものでなく、御家庭での訓育、学校・家庭間の協力が必要不可欠なことは言を俵かせません。特に青年期における自律心、独立心の養成については、御家庭におかれても十分の御配慮をいただきたい。往々にして、子供の欲望を満たすことが、子供への愛情であると御考えになつて

やに見受けられる事例を聞くことは遺憾であります。なおバイクによる交通違反、喫煙などについても格段の御配慮を願います。次第であります。私共高専にある者はすべて、御子弟が心身共に立派な卒業生として、社会に送り出すよう頑張りますが、それは学校側の努力だけでは困難であることを御認識いただきたい。

かつての大学へ大学への世相も、大学の希少価値が少なくなったこともあって、今や多少大学離れとなり、高専は見直される傾向にあります。しかし青少年層から工学離れが起つている現実には鑑み、私共は政治、経済、社会には関心が薄く、狭い専門の分野だけに止つた技術教育であると批判される現在の教育を反省し、新しい工学教育を行わねばならないと考えています。何と申しても、資源の乏しい日本が、文化、福祉を保持、向上させるための基盤は工業であり、公害の発生防止も除去も、エネルギー問題の解決も、工学にその責任と能力があるものであり、技術者の使命は一層重くなりこそすれ、決して軽くなるものではないと、決して軽くするものではありません。

本校は優れた自然環境の中にあります。緑なす台地に聳える校舎の窓からは、小岱、三池、雲仙、多良の峯々と、波静かな有明海が指呼の間にあります。清き諏訪川を汚さないため、最近寄宿舎地区、

校舎地区の排水処理施設が完成し、又多くの国費を投じて大規模な植樹も先日終了しました。植物は生きものであり、育てる者の愛情次第であります。諸君と共に、日照りや虫の害から守って行くならば、諸君が卒業される頃は、整備された植物園のような見事な学園となつていくこと確実であります。環境は人を育てるといいます。先ずその環境を育てましょう。

本校は既に一四〇〇名に近い卒業生を出し、それぞれ社会の第一線で中核として活躍しており、本校の評価を高めています。諸君はこれら先輩のあとを継ぐ者として、負けない能力を身につけていただきたい。最初、新入学生の皆さん、おめでとう、と申しました。しかしこれが本当のおめでとうになるか否かは、明日からの学習に対する心掛け次第であります。諸君の中から、一名の落伍者も出ないでほしい。そして五年後の卒業式に、もう一度おめでとうを云われたいようにあってほしい。

「初心忘るべからず」と云います。今日の感激、決意を忘れないでいただきたい。

これをもって入学式の式辞といたします。

昭和五十四年四月十日
有明工業高等専門学校長
轟 一郎

「高専の新しい教育課程とその対応について」

松島 寛 治

高専の教育課程の改善について、その設立の趣旨を踏まえて、数年来国専協(国立高等専門学校協会)において慎重な検討が続けられ、更に社会的要請から若干の反省もなされ授業時間数の減少、選択制の導入等、いわゆる「ゆとり」のある方向が打ち出され、一部の高専ではこれを受けた新しい試みも行われてきた。

かかるうち、昭和49年以来、全高専、各学科を挙げて高専教育課程の調査研究会が設けられて審議を重ね、51年7月に一応のまとめを得て、これに基づき高専の設置基準等の改正が、小・中・高校の教育諸法の「ゆとり」を方向とする改正と整合するように行われ、52年4月1日から施行された。

とになった。そこでこの大要を説明しよう。現在の1・2・3年生は周知しておきたい。

新しい卒業、進級認定基準についての要旨。一、新しく履修単位が認められることになった。修得単位については従来の考え方と同じである。すなわちその教科目について定められた時間数の三分の二以上を出席して単位認定試験を受けて合格した場合に履修単位として認められることになる。

現在、52年度以降の入学年次については卒業までに(特別教育活動を含まないで)180単位を履修することになるが、学校教育法施行規則の定める修得単位数と、本校で履修しなければならない単位数との差の範囲内、ある程度(一修得単位ではない)履修単位があることも認められることになった。

教官の示された評語そのものの指導によることで充分である。このことによつて、点取虫的教育評価が幾分か避けられ、評価の幅を広げることによって、学習への意欲がより高まるのではないかと期待するものである。

五、これまで述べた各教科目の成果と、特別教育活動の状況を学年末に持ちよつて進級認定の審議が行われる。これによつて該当学年に配当された教科目のすべての教育的成果が、基準に照して満足するものであれば、当該学年の課程を修了したものと認定されて進級を判定されるのであるが、それに至らない者は原学年に留め、教育上の配慮からその学年の全課程を再履修することになる。

高専の場合、一単位時間を五十分とし、一単位時間の三十分間分以上の授業を以て一単位としていて、現行ではその一七七単位以上の授業を履修することになっていて、明らかに授業を時間という量論的規定としてあって、単位そのものの質的概念は明確でない。

有明図書館だより 30

レファレンスコーナー ③

Reference Corner

ユニオン

学習閲覧室の開架図書に混在していた基本参考図書等を取り出して、学習閲覧室に近接した位置に設置しました。このコーナーは利用者が努力と時間を浪費することなく、求める資料なり、情報を的確に手にすることができるよう、また図書館が高率に利用されることをめざしています。

このように調査したい項目があればこのコーナーの資料を駆使することにより解決することができるとは思います。皆様のご利用をお待ちしています。

昭和53年度館外帯出図書冊数調

開館日数 295日 入館者数 23,906人 (23,547人) (単位 冊)

Table with columns for 学年 (Year), 学科 (Subject), and 冊数 (Number of books). Rows include 1st to 5th years and a total row, with sub-rows for Mechanical, Electrical, Industrial, and Building disciplines.

() 内は昭和52年度

「国語授業の選択制(四・五年)の廃止について」 - 国語科 -

53年度をもって、45年度から行ってきた四・五年国語の選択授業を終了。これを始めた趣旨の最も大きな点は、学生諸君の積極的な授業参加への期待であった。当初、四五年間は、それは十分に満たされたが、やがて易きにつく傾向が現われ、遂に昨53年度には多数の風となった。

就職試験体験記

53化 小川 洋介

まず私が言いたいのは「自分に合った会社を選ぶこと」です。試験の時の事は言わずともわかっていると思いますので省きます。私はこの事で父と意見が対立したので、二十才になって一人立ちの年齢です。自分の意見を確立して自分という一人の人間として育ててくたさい。最後に試験場に行くと見失なうことがありますが、それを見失なわないように、それに自分を折りこめ、五年生の健闘を祈ります。



Year of the child's meaning... 国際児童年 International Year of the child's meaning...

- 委員名簿 (昭和五十四年度) 委員長 池本憲義 図書館長 森本忠彦 委員 (A) 新谷肇 先生 (B) 吉高久夫 先生 (C) 河野公一 先生 (D) 近藤誠四郎 先生 (E) 石崎勝典 先生

特集

『新年度にあたり学生に望む』

「三年先のケイコをしる」

機械工学科 山下 巖

私は相撲を見るのが好きである。相撲のおもしろさは、立ち合いの瞬間のピンと張りつめた緊張感、それに引続く勝負の展開の中にあると思う。立ち合いがよければ体の小さな者でも大きな相手を組伏せることが可能である。立ち合いのまずさは、即その後の戦局の展開に影響を及ぼし、よほどでない限り、そのままを挽回し勝利に結びつけることはむずかしい。それ故、私がこれまでひいきにした力士は体が大きくて強い力士よりも、さほど強くはなかつとも体の小さな力士の方が多かったような気がする。その相撲界の鍛練の教えに「三年先のケイコをしる」との格言がある。この格言を学生諸君にあてはめて考えて見た。大相撲の世界は、当然土俵にあれば、勝負が決するまで戦うのである。つまり勝つという唯一の目的を持って力士は土俵にあがる。立ち合いの瞬間のすばやい変わり身で相手の動きを封じ勝星をあける。

やれ本年は欠点科目も少なくて無事進級できた。また、当分はゆつくりやつてゆこうかとの気分を持つていないだろうか。つまり単位修得が最大限の目標であるが如く試験寸前の勉強にのみ追われていくような気がするがどうであろう。技術者として将来一人立ちし、あまたの技術者を伍して技術を競ってゆくには、そのような目先の勉強にのみまよきゆうとしてはおれない。確実な実力を養成し、基礎学力に立脚した応用力を養うべきである。そのためには日常の地道な努力と学習を怠りなくやつてゆく以外方法はありえないのである。諸君の目標は立派な技術者としての勝利を手にするにはないだろうか。

学生に望む

電気工学科 永守 知見

人間だれしもだいたいにおいて、楽をしたいし、どんなに厳しい生活を自ら好んで行っている人でも、楽をしたいものである。そのため、だれでも厳しい生活より快適な生活を求める。つまり、快適さを求めることにおいては、人々の差はあまりない。しかし、人間生きていく以上、快適な生活ばかりではない。山でも海でも同じである。ヨットをあやつる海の男たちは、夏のあつたい海ばかりか、冬の凍りつく海の水をかぶってヨットの舵を握るはずである。問題は、その凍てつくような海の上にはヨットを浮かべて快適どころではない海との戦いを「面白い」と感じるかどうかである。つまり、ある人々にとっては辛さだけのものが、ある人々にとってははたまたま魅力をもっている。楽をするほうにはこの差がない。楽をすることには個性がない。だれでも好きだし、だれでも楽をしたい。一つの困難を乗り越え、そこに喜びを見出し、さらに大きな困難に挑んで行く。

諸君はまだ学生であり、人生の成否は学校を卒業してからで、学生時代はその準備期間であります。学校を卒業したら、すぐ一人前というわけでは決してありませんが、とにかく、長い短いの差はあつても準備期間を持っています。現在の経済情勢に目を転じて、景気は少し上向き加減になってきたとはいえ、まだまだまぎびしいものがあり、諸君が就職しようとする時に肌で感じるでしょう。希望する会社にはいれなかつてもいいし、はいったとしても思い通りの仕事をするのができないかも知れません。しかし、どうでしょうか。こういう社会情勢なり経済情勢にめぐりあつたということが、ほんとうに諸君にとって不幸なことかどうかは一人一人の受け取り方、対応の仕方によって違つてくると思ひます。何もかも、非常に好ましい満ち足りたなかで何の苦労もなく仕事ができる。それは結構といえども、ほんとうの人間の味といふものは、そういう温かい風が心地よく吹いている環境のなかではなかなか身につくものではないと思ひます。苦しみがあり時には自分の思案にあまることが、そういうきびしい体験を経てこそ、はじめて人間としてたくましく成長していくもの、もっと極端にいえば混乱のなかで人は育つ、いわばそういう過程のなかで、いろいろと他人にもまれ、悩みながら、人間として成長していくと思ひます。諸君も学校で社会で、困難に出くわし、つまづくこともあるでしょう。もし、つまづいたとしても諸君には、肉体が病氣に対して強い自然治癒力を持つていられるように精神もめつたなことは前れない復元力を持つています。ことに青春時代のそれは、傷つきやすいように見えて、実は、すこぶる強靱であるように思ひます。このことは青春期の心には、限りなく陰うつなもの、限りなく明るく明朗なものがバランスよく同居しているからでしょうか。

では、いったい、学生時代に何をしたら困難なこと、辛いことに耐え乗り越えただけの力が湧き起こるかというと、それは、勉強によって培われた真の実力、そして、日常生活で養われた豊かな人間性にあると思ひます。言うまでもなく、勉強の面ではその場限りの付け焼き刃では自分の力にならないし、毎日、時間を無駄にしないで、二つこつと勉強して欲しいと思ひます。人間性を養うという面では、クラブ活動を熱心に行ふのもいいし、戸外でスポーツに親しむのもいいし、芝生に寝ころがって文学に読みふけるのもいいし、音楽に耳を傾け、また、友人や先輩と時間を忘れて語り合うのもいいでしょう。

学生諸君の希望と期待

工業化学科 田辺伊佐雄

学生時代に、諸君の青春はいろいろな言葉に埋まると思ひます。バラ色、灰色、希望、挫折、率直、反抗、勇気、暴走、思索、煩悶、マジメ・ミジメ、前途洋々・欲求不満など。諸君が卒業される時は、知性を感じさせる、日に焼けた青年になつて欲しいと思ひます。企業と大学の兼務の立場から赴任したばかりで、本校への認識は未だ誠に浅いのですが、逆にインプレッションがばやけない内にとペンをとりました。企業にあつた三十年、可成りの期間を一部上場会社の役員として経営側であり、云わば卒業生の採用側で、又研究開発の推進上層々の大学との接触も深く、業務上海外とのか、わりも多かつたと云えましよう。こうした体験を通じて、私なりの日本社会の評価や、今自分も高専生であつたらしく、かくありたいと考える事を、皆さんへの希望と期待として書いて見ようと思ひます。

高見山の自伝からの旅の追想 四月二十四日はやむを得ない所用で上京の為幹線車のシートにあつて、四月末号の週間朝日を手

にして思はずは、えみました。それは人気が相撲高見山の自伝です。ハワイ、マウイ島出身の貧しい日系米人としての生立ち、足腰にひどいダメージを受けた高校時代の事故親方との出会いやチャンスを生じ、相撲に入つての苦勞語が彼のあの相撲のような辛直さで語られていました。特に興味を引いたのが、彼の日系結婚観とサラリーの処理でした。私はうららかな日射しの中で、いつしか昭和四十年初夏の、気の合つたアメリカ、ドイツ、ノルウェーの若いエンジニアと一緒のオスロから北の町モイラナへの旅を思い出していました。その時の仕事はノルウェー国営製鉄所の六万KVVAの新鋭電炉の操業の視察と討論でした。日本の初夏の夕焼を思わせる白夜の中を北海沿のフォロルドの海辺を北へ北へと進む列車の中で、北欧の地酒アキアピットを飲みながら、パーティの話は何時しか技術論から、各自のサラリーの処理に及んでいました。

アルコールの勢いもあつて、結果的にそれぞれの国柄を紹介する結果ともなつたのですが、驚いた事に、欧米の四人共に先づ自分で開封し、生活費だけ奥さんに渡すよとの事で、僕のそのま、ワイフに渡すよとの話には、皆が飛び上るように驚いたものでした。お互いに責任範囲を決めて金銭

私最初のアメリカは昭和三十六年で、仕事は技術契約とその習得で、先づニューヨークで馴れない交渉を終えてサインシ実習はミシシッピーの土流、オハヨー州ペリリー村の工場でした。約五百人の工場でしたが、見たものは驚くべき彼等の体力と密度の高い働き振り、しかもボスに対して忠実で、又上部の人ほど良く働く健全その

もの、習慣でした。約一ヶ月半の実習期間、仕事の外に多くの家庭や人と接する機会を得ましたが、とあるパーティの席で同じテーブルの青年達に彼等のこれからの生き方について質問し、その答えの古風な健全さにつくりしました。と云うのは、先づうんと勉強して、オポテニナイを大切に生かし、好みに合つた良い仕事と友達を持ち、先づ学資を父に返して好きな人と結婚して、と何人もが強調したものでした。これは決して例外なものではなく、日本の学生諸君が殆んど忘れたか、考えたこともない古い健康さがあるとも云えましよう。彼等には家族、友人、ボスと自分が運命共同体を構成していると思ひ、云う意識が強く、この意識が特に健全なカントリサイドのアメリカ人質をつくらせているように思ひます。

此の意識は反面、且つてアメリカ全土を吹き荒れたマツカシー旋風のような不自由な行き過ぎを生み、また日本的先入観とは逆に学閥、門閥を守る結果となつていようです。此の学閥、門閥尊重の傾向は英国ヨーロッパでは、日本では想像外の更に強いものとなつているともたしかです。之までの海外との接触から振り返つて日本を考えると、ソ連、東欧、中国のような非情な体制の

しめつけもなく、インドのようなカースト制の枠、回教団のような宗教的タブーと権威主義の重圧、アフリカの多くの国に見られる部族間の闘争や差別、南阿、米国の激しい人種差別などの大障壁は今日本には基本的でないように思ひます。現在の日本はまさに自由で平和で、国民生産も高く、単一民族でしかも気候も温和な国土と社会は他に例を見ない貴重なもの、現在の日本程善意に満ち努力が報われる社会はまれではないかと云うのが、海外との接触からの私の実感です。早い進路の設定と卒研などこのように諸君は今世界的に恵まれた社会の高専生として現在があるわけですが、日本も欧米の先進国がすでにそうであつたように、オイルショックを引金に低成長長期に入り、此の低成長長期は長く定着するでしょう。又一方進学率は年々高まり、高校への進学率は九二%をこえ、高校生の大学高専への進学率は三九%をこえているのが実情である事は諸君の御承知の通りです。又最近の有名上場会社の理工科系の主力はマスターコース卒業生に移りつ、あるのも事実です。一方高専卒業生の大学三年編入の道も開かれていふ事を考えれば、新設の技術大学は勿論歴史のある有名大学への充分な準備の下でのチ

来上げるものでした。現在もめぐま
れた大学の卒論の一年、更にマス
ターコースの二年はこうした充実
した状態であることを思えば、や
むを得ず時間的に不充分な高専の
卒研をさぼる事など夢にも出来な
い事であり、積極的、自発的に充
実の努力もして見るものだと思います。

十年目の雑感

山口 光臣

建築学科も創設以来、グローバ
ルに云えば、十分の一世紀を過ぎ
た。十年を節目として、つらく
これまでの学科の経過を振り返つ
てみると、どうも昨今の建築学科
の学生は、シラケたというか、気
力がない。世の中が泰平ムードで
世間をみる目が甘くなったのだろ
うか。それは年次を終るにつれて
現われ方が増しているように見え
る。そこに何かの原因があるはず
だと思いが、さっぱり分らない。
建築学科は、わが国の経済成長に
伴う設備投資のため、雨後の筍の
ように、全国あちこち、ここの学
校に設けられ、入学競争率も首位
を占めているところが多い。その
後の石油ショックによる減速経済
のなかで、求人会社が減つてもそ
れは余り変らない。これを本校の
昭和五十四年二月卒業者に例をと

れば、機械、電気工学科の求人會
社数が、それぞれ、二〇九社に対
して、建築学科は八十二社で、他
の学科の四分の一しか求人がない
しかし、一方では、本年の建築学
科の入学競争率は、約三、九倍で
高い方である。しかも、合格決定
者も上位で、才一次志望で全員入
学している。またつい最近行われ
た新入生の数学科の診断テストの
結果でも、六十五点が一人居り、他
は全員七十点以上で、相当良い素
質の者が入学している。これが学
年進行につれて、他の学科より出
来が悪い。就職も厳しく、入学競
争率も高いのに、なぜ建築学科に
好んで来るのであろうか。みな才
一志望で入学しているのだから、大
いに張り切るのが当然の理ではない
だろうか。それらの原因を学生側
について見ると、このころ、少し
はわかりかけたような気がする。
試みにその幾つかをあげてみると
先づオ一には、九州で高専に建築
学科があるのは、有明と都城の二
つだけで、このころ八代に土木建
築学科が出来た。このため、年少
の入学者が九州の各地から集つて
来て、その出身地が多方面に亘つ
ている。このため、各人の地域性
が出て、ばらばらでクラス全体の
雰囲気がかままりにくい。このこ
ろは、建築学科の宿命でありオ一
回生から云えることであるが、初
期の段階では、どうしても建築家
になるのだと云う意識が強く出て

或点そのことは乗り越えて来たよ
うだ。次には、オ二のことが大い
に問題の原因になっているのでは
ないだろうか。それは最近の現象
として、入学者の父兄に土木建築
関係の方々が多くなったということ
である。それらの学生が、親の跡
継ぎになるのだから、大いに頑張
ろうと張り切つてくれると問題はな
いのだが、それが逆に作用して、
親が土木建築関係だから、卒業さ
すれば何とかなる、適当に勉強し
て、せめて落ちないだけやればい
いと考える者が出てくることであ
る。これが恐いことで、このよ
うな心得の学生が多くなると、こ
れがクラスの足かせとなり、シラ
ケムードになるのではないだろう
か。もつと厳しく云えば、親も息
子に跡継ぎをして貰わねばならな
いと云う潜在意識があるので、息
子に強いことも云えず、云いなり
になって、甘やかしていることも
考えられる。オ三には、建築学科
は他の学科と少し違つた分野がみ
られる。建築は、工学的、機能的な
ものとともに、美学的感性を必
要とする。このことは、入学時の
オ一志望のなかで、はつきりした
目的意識をもっていることで分か
る。美的な感性に、主体的な発想
を馳せ廻らせて、自由を望む傾向
がみられる。そのため、高専に入
つたらすぐ好きな設計をやり、学
科も建築専門学科ばかりと、胸を
ふくらませていたのが、いざ習う

のは、数学、英語その他が多く、
望んでいた建築のことは余り習わ
ないので、初め描いていた夢が、
シャボン玉の気が抜けたように縮
まり、年少であればなおさら、が
っかりしてやる気を減退させるの
ではないだろうか。しかし、何と
云つても、根本的には、年次的に
学生の学力の低下が考えられる。
このような現況のなかで、最近
の就職はどうであろうか。前述の
ように建築学科の就職は厳しく選
択の自由が少なく、石油ショック
のあとで、就職の最も厳しかった
五十年、五十一年度に五年の担
任をしたが、求人件数は約六十社
ぐらいて、一度就職試験に落ちる
と次に受ける場所がないような
不安感があつた。また、就職先も
昔には考えもしなかつた小企業に
出て行つた。一面には、一時勢ど
り云え可愛想でもあつた。しかし、
このころは、不況克服のため政府
の公共投資が多くなり、景気が上
向いて求人件数も増えてきた。こ
のなかで、就職の理想も段々と様
変わりが起きていることが云える。昔
それが昨まではばつぱり求人云
つてきている。しかし、大手業者
に安心して応募させる学生が昔と
違つて、今は余り居ない。たとえ
居るにしても、落ちる不安が先に
立つのである。学生もその辺を知

つてか応募しようせず、辞退す
る者が出てくる。さらに一般的風
潮として、親も子も地元志向であ
る。「よし」やつてやるという元
気のよい学生が居なくなつて、大
手業者の誘いをそのままにするの
で、折角、先輩が苦労して築いた
就職先もフイにして終つてしま
る。もうその会社からは、そのこ
の就職は云つて来ず、就職の範囲
を狭めている。このころ、いい会
社に就職運動に行こうにも、推せ
んに値する学生が少なくて困るの
で中止している。求人に来る会社
だけに応募して、落ちたとき、初
めていろいろの会社にコネで頼み
込んでみる。またこのころの傾向
として、公務員志望の多いこと
である。公務員になれば、前記の泰
平ムードに最適である。しかしそ
れも這入るのに難しい。高専の
学生は就職には評判がよいので、
世間の若者たちの就職の厳しさが、
自分でやらないため分らない。
もう一つ変わった現象は、このころ
女子学生の建築学科への進出が目
覚しく合格者も多い。本年は五名
を数えている。これから先は、建
築界は男だけの世界ではなくなつ
たようだ。しかし現在では女子学
生の就職には頭を悩まされる。
世の中で建設業ほど景気が不景
気に左右される業種は少ない。そ
れは不安定である。まして地元志
向の就職であれば、なおさらそ
に就職しようとする者は、やる気

学び舎に寄せて

一般科

花田 富二夫

かけがえない生涯のひと時を
どのように過ごしたら良いのか。
それを決定するのは一生涯の責任
であろうか。自分と自分をとりま
く環境との絶えることのない葛藤
と撞着との間で辛うじて自己を背
負いながら歩まねばならぬ、その
不安の象徴が現にこうして集い來
たる君等であることとらえるのは極
言に過ぎようか。何故なら君等は
今自らを縛り、且つ自らを託すべ
き何物も持たぬからだ。そこに混
沌としているのは無限の可能性と
無限の動揺とであろう。

前者を勉学や知的興味に、後者
を様々な違反を始め校内で接する
旧弊や服装の乱雑な教室の汚さ等
に比すれば、本校の現状はどち
らに傾いているだろうか。そこに
学校とはどういう場であるかの教
える者や教えられる者の努力が必
要となつてくる。愚見ながら私は
学校とは本質を論じる最高の場だ
と思つてよい。本質とは理想と置
き換えてもよい。様々な処世術と
訓練とは社会に出てからでも充分
学べるだろう。

本校は謂わば大牟田の中で獅子
的存在である。しかし、眼れる獅
子であつてはならない。況んや奢
れる獅子はそれ以下だ。その校風
と理念を決定するのは獅子の腹中
にある君等学生の真に獅子の中味
たる力だ。特に上級生の知的判断
と勇氣ある創造力はその方向を決
定しよう。加えて本校独特のファ
ミリスピリットが品格をもつて
醸成された時我々は先ず学び舎を
持てたと言えよう。

一般科

川本 敬之

小田島雄志という人の書いた「
珈琲店のシェイクスピア」(品文
社刊)を読んだら、次のよう
なちよつとい話に出会つたので
ここに紹介し、お茶を濁させてい
たく。

二年の夏、川崎の工場で石炭運び
のアルバイトをしたときの話であ
る。仕事は二人一組のノルマ制。
したがって元気な者は、昼休みも
とらずに早く仕事を終らせ、浮か
せた時間でまた他の仕事をし、金
をかせぐわけである。

彼はKと言う沖縄戦の生き残り
の元兵士とベアを組むのだが、小
田島さんは体力も乏しく、仕事に
も不慣れで、仕事はいつころはか
が行かない。彼はKに文句を言わ
れどおしであった。

こうして一週間もたつと小田島
さんも仕事に慣れ、Kは浮いた時
間でもよそに嫁ぎに行けるようにな
る。しかし、小田島さんは他に仕
事もなく、一日の給金が支払われ
る五時を待つだけである。彼はそ
れまでの数時間を「石炭置場で一
人、なんと英語の勉強をしてすこ
したのである。読んでのはアン
デルセンの童話集(十五円)であ
つた。いまでもその本を開くと、
石炭の粉がポロツと落ちたりする

この話にひかれるものが二つある。
早出を申し出た小田島さんも立派
であるが、何も言わず、翌朝早く
も待っていたKさんも立派である。
(これをKの打算とはとりたくな
い) この心意気一つ。もう一
つは、誰も居ぬ石炭置場で、日陰
に座つてアンデルセンを読む小田
島さんに、戦後の混乱期にあつて
も何かを求めたいという若者の典
型を見る思いがする。聞けば、こ
の時期には、岩波から新刊が出る
と、それを求めようとする若者が
書店のまわりを列を作つたという
物が潤沢になつた当今、思いやり
も、知的な欲求も、ともに見失わ
れつつあるように見えるのは残念
である。

学寮だより

研修会を終えて

岱明寮々長 5A 高沢清隆

我々 岱明寮自治会役員は、四
月二、三日の二日間、大分県湯布
院町の青年の家において、寮の今
までの反省および今後の方針など
について話し合つた。

あつたが後者が主であった。まず
「寮の自治のあり方」であつた。
これについては前年度までの反省
をし、寮生にとつてプラスになる
ことはとどんどん取り入れて、そ
して学則の下に指導していくとい
うことである。

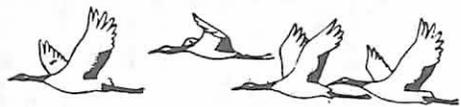
「朝の点呼」が実施され、寮がまた一
歩前進し、ひき締まつたように思
われる。
今回、研修会を行つて強く思つ
たことは、寮生全員の団結の下に
寮を運営することの大切さであり
それとともに「いい」と、思つた
ことは思い切つて実行に移すこと
である。
これからは、寮生一人一人が、
自覚をもち、けじめのついた寮生
活を送つてほしい。
最後に研修会にあつて御参加し
て下さつた諸先生方、寮務係の方
方、寮母さん、バスの運転手の方
方に厚くお礼申し上げます。

新入寮生歓迎漫歩の報告

親 良 中 5A 田 中 親

四月二十一日の午
後六時に紅葉棟南面の
広場に集合し、ここで
ファイヤーストームを
行つた。この時、新人
寮生の自己紹介を行い、
その後全員で歌を歌つ
た。そして最後に、高
沢寮長のかけ声で気合
いを入れて元気よく漫
歩の道のりを歩き出した。

今年の漫歩は、全行程27kmと、
昨年よりやや長い行程であつたが
みんな元気よく歩いた。休憩地点は、
オ一休憩が八幡宮神社。この休
つてか応募しようせず、辞退す
る者が出てくる。さらに一般的風
潮として、親も子も地元志向であ
る。「よし」やつてやるという元
気のよい学生が居なくなつて、大
手業者の誘いをそのままにするの
で、折角、先輩が苦労して築いた
就職先もフイにして終つてしま
る。もうその会社からは、そのこ
の就職は云つて来ず、就職の範囲
を狭めている。このころ、いい会
社に就職運動に行こうにも、推せ
んに値する学生が少なくて困るの
で中止している。求人に来る会社
だけに応募して、落ちたとき、初
めていろいろの会社にコネで頼み
込んでみる。またこのころの傾向
として、公務員志望の多いこと
である。公務員になれば、前記の泰
平ムードに最適である。しかしそ
れも這入るのに難しい。高専の
学生は就職には評判がよいので、
世間の若者たちの就職の厳しさが、
自分でやらないため分らない。
もう一つ変わった現象は、このころ
女子学生の建築学科への進出が目
覚しく合格者も多い。本年は五名
を数えている。これから先は、建
築界は男だけの世界ではなくなつ
たようだ。しかし現在では女子学
生の就職には頭を悩まされる。
世の中で建設業ほど景気が不景
気に左右される業種は少ない。そ
れは不安定である。まして地元志
向の就職であれば、なおさらそ
に就職しようとする者は、やる気



教室通信

機械工学科

- 田口絏一先生□内地留学(九州大学工学部生産機械工学科教室 佐久間研究室)
研究テーマ:深穴加工の研究
期間:昭和54-5-1 ~ 55-2-28
◎812 福岡市東区箱崎3丁目15-25 柴田俊郎様方
- 永田慶治君43機◎674 明石市大久保町高丘5丁目12-7
TEL 078-935-6699 (新築転居)
- 西田 真君43機□高千穂チーゼル(株)熊本営業所861-41
熊本市近見町宇鳥田2286-1 ◎869-47八代市昭和明徴
町857-9
- 田口 悟君43機□鹿児島大学医学部医学科入学
- 清水啓之君48機◎P.T. IPPA GAYA BARU JL.
ASAHAN No.3 GALANGAN SEMARANG
INDONESIA (本年9月頃まで再度出張中)
- 森田秀之君48機□5月5日結婚 新婦範子さん。
- 深耕昭彦君49機□3月2日結婚 新婦恵美子さん(旧姓柳) ◎埼玉県浦和市文蔵3丁目28-1吉川マンション
505号 TEL 0488(61)3825
- 小松博文君50機◎861-08熊本県玉名郡南関町字外目北
開1213-2 TEL09685-3-1832 (新築転居)
- 白木満雄君53機□海上自衛隊 神奈川県横須賀市御幸
浜町4番1号 海上自衛隊横須賀教育隊
- 大森豊春君54機□富士電気化学◎431-04静岡県湖西市
鷺津377-1 岳水寮

電気工学科

- 川野広市教授退官 54年4月1日 住所 ◎ 814
福岡市西区别府2丁目6923 TEL 092-841-3609
川野先生は創設間もない39年より今日まで電気工学科
はもとより有明高専の基礎づくりに努力されてこられ
ました。そして誠実で実直な人柄は学生諸君も多大の
感銘をうけているものと思います。卒業生、在校生と
共に先生の御健康と御多幸をお祈り致します。
尚今後は非常勤講師としてお見えになります。
- 吉田桂子さん結婚のため退職 54年3月31日。
挙式 54年4月7日 新郎宮園健一さん 新居◎ 567
茨木市山手台三丁目27の30 TEL 072-49-1961 宮園
健一君は電気工学科50年の卒業です。在学時代からの愛
情を大事に育てたお二人に心からの祝福をおくりませ
う。
- 宮園健一君 50年電 54年4月7日結婚 新婦 桂子
さん 新居 ◎567 茨木市山手台三丁目27の30
TEL 072-49-1961

工業化学科

- 鐘ヶ江勉君 43化 ◎ 270 千葉県松戸市小金 592
サンライトパストラル二番街B-201 TEL 0473-45-
1257
- 田中大一郎君 43化 ◎ 524 滋賀県守山市大門町
88-1
- 龍野陽一君 43化 ◎ 731-01 広島市佐東町八木
2840
- 榎本義雄君 45化 54年3月3日挙式 新婦恵美子さ
ん
- 小川恭五君 46化 54年4月1日挙式 新婦とみ子さ
ん 新居 ◎千葉市真砂4丁目4番1棟 215
- 西山美千代(旧姓金子)さん 46化 53年11月26日挙
式 新郎芳喜氏 新居◎ 836 大牟田市天領町2-27-1
- 古賀洋子(旧姓村上)さん 50化 54年4月1日挙式
新郎愛生氏 新居◎ 665 宝塚市末成町18-27
やよい荘
- 芋生洋子さん 54化 ◎ 569 大阪府高槻市明田町
5-22 桃園荘

- 上原祐子さん 54化 ◎ 174 東京都板橋区坂下3-
36-25 植田荘 TEL 03-966-6287
- 内田信吾君 54化 ◎ 248 鎌倉市腰越 706 湘南寮
- 古賀光一君 54化 ◎ 573 枚方市北中振3丁目30-
18 松下電器松善寮
- 中小原義弘君 54化 ◎ 214 川崎市多摩区腰28-3
東京コンピューターサービス久地寮
- 原口峰子さん 54化 ◎ 673-05 兵庫県三木市緑ヶ
丘町本町2-5 ナリス化粧品三木寮
- 古財和美君 54化 ◎ 314 茨城県鹿島郡鹿島町大字
宮中宇阿崎 418 山鹿寮
- 田中直子さん 54化 ◎ 673-05 兵庫県三木市緑ヶ
丘町本町2-5 ナリス化粧品三木寮
- 松尾泰美君 54化 ◎ 350 埼玉県川越市大字笠幡神
明 159 和光純葉笠幡寮
- 水田典夫君 54化 ◎ 630 奈良市神殿町 667 奈良
油脂工業内
- 下川勇次君 51化

三井東圧よりアルジェリアに派遣され活躍中。下記は
便りの原文からの抜書。
前略、……アルジェリアは北アフリカに広がる世界最
大のサハラ砂漠の大部分を領有し、総面積は日本の
6.5倍、世界で10番目の大きさです。気候は温暖で湿度
が少なく思われています。……生活習慣(イスラム宗
教)が違うこと、言葉に対するコンプレックスには同じ
人間、体でぶつかればお互いに意志を通じ理解しあ
えると思いついてアタックしています。今では平気で日本語
(特に大牟田弁)を中心にして英、仏語をとりまぜて
話しかけています。仕事(ポリ塩化ビニール製造プラ
ントに関するC₂供給・電解セクション)は順調に進み
目下フレオベレーションに忙がしい毎日です。
以下略。

◎ Mr. Yuji SHIMOGAWA (PC-8)
Toyo Engineering Corporation
B. P. 48, Skida, ALGERIE

建築学科

- 永い間、設計製図を教えて載いた野中啓一先生が仕事
の御都合でやめられました。どうもありがとうございました。
- 後任には、松下静祐先生に4A・5Aの設計製図をみて
頂いています。先生は、竹中工務店の設計部に20数
年間勤務され、現在設計事務所を開かれています。
- 情報処理は、石井秀夫先生にかわり、前田靖弘先生が
こられました。石井先生、四年間どうもありがとうございました。
- 又、造形は新しく、松崎美英子先生に教えて頂いてい
ます。先生は大牟田市在住の陶芸家で、甘木山腹に窯
を開いておられます。
- 技官の太田正孝さんが九州芸工大施設課に栄転されま
した。本当に永い間ありがとうございました。
福岡市南区大字諸岡 503の9 時延アパート 202号
- 後任に、田中立夫さんがこられました。若くて、エネ
ルギッシュな方です。
- 古川善紹君 49建 松尾建設を退社し、家業を継ぐこ
とになりました。◎九州植木鉢工業 (0942-47-2222)
- 渡辺勝義君 54建 福岡の労働基準局に就職
- 吉川一彦君 50建 4月23日大濠ウェディングホー
ルで挙式されました。おめでとうございます。新婦は
由利子さん。
- 宮辺 功君 52建 ◎勤務先変更□門司鉄道管理局博多
建築区(本区)設計
福岡市博多区博多駅中央街1の1
TEL 092-471-8111
- 学校来訪者(敬称略) 野下裕司(48建)古川善紹(49建)
横尾泰嗣、伊藤利彦(54建)



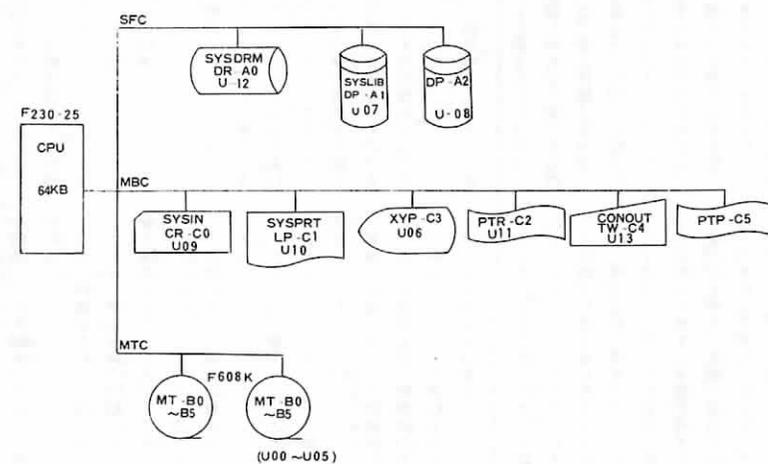
電子計算機室だより
室長 荒木三知夫

取扱データ量の増加に対し本
の電算機の主記憶容量は極めて不
十分なものであり、計算にも種々
の制約を受けていた。主記憶容量
の増強と周辺機器の増設は発足当
の間に九州大学、久留米高専との間

に協議が行われたが、結果的に本
校に關しては主記憶装置三十二K
Bを譲り受け計六十四KBと主記
憶容量は倍増することとなった。
今後記憶容量不足の問題は多少緩
和するものと思われる。(試算で
は実数の配列が165%可能とな
る)一次に磁気ディスクドライブ装
置一台、磁気テープ装置(二テッ
キ)一台及び紙テープ読取・パン
チ装置を譲り受けた。磁気ディス
クドライブ装置は本校において従
来使用して来た装置と同一型式で
あり、大量のデータ処理に磁気テ
ープと共に利用されるものと思わ
れる。磁気テープはメーカ作製の
アプリケーションプログラムの
利用、大量のデータ処理、事務的
データ処理等に広く使用されるこ
とを期待している。また本校電算
機室においてオペレーティングシ
ステムの編集、変更が可能となり、
従来芸工大、熊本県教育センタ
等の電算室の空時間を利用してシ
ステム編集をお願いしており、多
くの御迷惑をかけていた問題が解
消した。紙テープパンチの設置は
現在リストのみの出力に外部機器
に利用可能な形で出力が加わる
こととなり、NC工作機への応用
を始めとして用途が拡大されるも
の期待される。今後増設された
周辺機器を利用してのプログラ
ムの開発、研究が進められること
を希望します。下図に新システムの
論理機番、物理機番を付してシス

テム構成を示す。次に電算室より
最近の利用状況より学生諸君に
する希望を述べらる。現在学生諸
君の利用度は必ずしも満足すべき状
態にあるとは云えず、より積極的
な利用を期待している。電算室と
しても情報処理教育関係の教官の
御協力を得て、電算機に関する関
心を高めると共に、より効果的情
報処理教育の推進して行く心算であ
る。本校の如き工学系の学校にお
いてコンピュータに関するクラブ
または同好会の存在しない状態は
奇異の感がないでもない。前述
の如く主記憶装置の容量も倍増し、
周辺機器も充実し、一応電算機室
としての体裁を整えることが出来
たが本計算組織は発表後十年以上
経過しており、電算機の発展の驚
異の速度を考えるとハード・ソフ
ト共に最早満足すべきものとは云
い難い。この問題は本校だけの問
題ではないが、今後共各方面の御
理解を得て、より新しいシステム
の設置を実現し得る様努力して行
きたい。おわりに今度の増設には
木村前室長・会計課長をはじめ校
内外の方々々に大変御世話になりま
した。厚く御礼申し上げます。

有明工業高等専門学校電子計算機室システム接続図



項目	608K
テープ速度 [m/s]	0.69
データ転送速度 [b/s]	21.6K
スタート/ストップ時間 [ms]	9.0/2.5
巻戻し時間 [min]	3.0
書込み密度 [Bpi]	800
トラック数	9
リール	IBM ハーフサイズ

な作業にもかかわらず無事完了し、あとは仕上げ作業のみとなった。
E 昭和54年度総合実習
 テーマ及び前期時間割
 本年度のテーマは風洞の製作を中心到大牟田市周辺の大気汚染の調査等の環境問題、近年その重要性を増している太陽熱等を進める計画となっている。(表2・3)

G その他
 校長の台字をもとに機械学生によって総合実習センターの表札が鋳物により完成した(写真4)。また、模型実験用振動台も二年間苦心して改良を重ねた結果機械卒研学生により完成した(写真5)。
 (建築・吉岡)

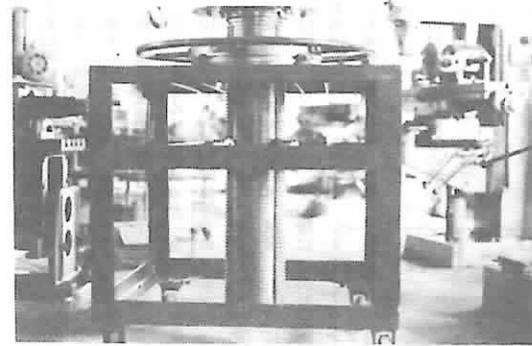


写真2 完成した模型支持台の外観

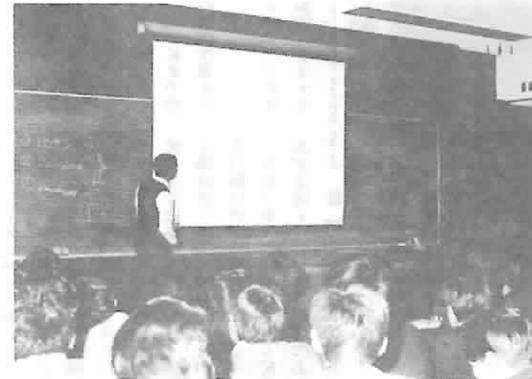


写真3 総合実習特別講義状況



写真4 総合実習センター表札



写真5 振動台の外観

表2 昭和54年度総合実習テーマ

環境風洞製作関係	環境風洞実験関係	施設整備関係	環境問題関係	エネルギー関係その他
1 環境風洞の製作	1 環境風洞の性能試験	1 鋼管移動足場の製作	1 実験室廃水処理	1 太陽熱温水器の改良
2 環境風洞の据付工事及び仕上工事	2 環境風洞実験用模型の製作	2 間仕切壁工事	2 電気的空気清浄装置の改良	2 ソーラーハウス計画
3 測定部センサー移動装置の製作	3 環境風洞電気計測計画	3 プロジェクト室の二階計画	3 防風網の実験	3 スペースモジュレータの作製
4 駆動部チャンバ工事	4 環境風洞実験資料・機器取扱指導書作成	4 計測室の整備工事	4 大牟田・荒尾地区大気汚染調査	4 総合実習自学自習書の作成
5 空気取入・排出チャンバ工事				

表3 昭和54年度総合実習・前期時間割

曜日	学科	機械工学科(M)	電気工学科(E)	工業化学科(C)	建築学科(A)
月		3 M (5~7) 工学実験(川崎、中村、多田限)	3 E (6~8) 応用物理(水守、玉野)	5 C (5~8) 工学実験(吉武、玉野)	
火		5 M (5~6) 卒業研究(清森、中村、多田限)			5 A (5~6) 卒業研究(吉岡)
水		3 M (6~8); 5 M (5~7) 応用物理(石崎)工学実験(清森他)			5 A (6~8) 建築実験・卒業研究(吉岡)
木		4 M (6~8) 工学実験(清森、中村、多田限)	4 E (5~7) 工学実験(玉野)	4 C (5~7) 工学実験(松本)*	3 A (5~7) 応用物理(玉野)
金			5 E (5~7) 工学実験(辻、吉岡)	3 C (5~7) 応用物理(吉岡)	
土		5 M (2~4) 工学実験(清森、中村、多田限)			4 A (1~4) 建築実験・設計製図(吉岡)

上段の()は時限、下段の()は指導教官(敬称略)を示す。なお、不定期参加の場合は省略した。また*印は廃水処理実習を示す。